



# 車輪梅

<鹿島中学校 学校だより>

【平成31年3月号④】

待ち遠しい春がもうすぐそこ 《**重点目標**》 『**品格を高め、目標に向かってねばり強く取り組もう**』

最後の学校だよりになりますが、今年度の教育活動にあたり、保護者の皆さま、地域の皆さま、そして関係諸機関の方々に、ご支援ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。これからも鹿島中学校へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。3年間、ご愛読ありがとうございました。(発行: 校長 渡辺亮恵)

## 【馬稜杯での活躍 **優勝&準優勝**】

3月3日、相馬市で開催された第27回馬稜杯中学生バスケットボール大会において、女子**優勝**男子**準優勝**の好成績を収めました。この栄誉を称え、皆さんとともに喜びたいと思います。

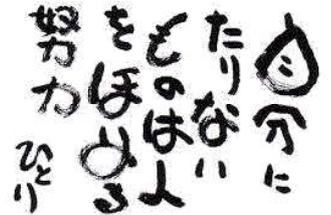


## 【言葉遣いは **心づかい**】

精神科医・医学博士の斎藤茂太氏が書かれた書物「人生に必要な100の言葉」に『「ほめ言葉」にこそ魂が必要なのです』という文章があります。

~『確かに、ほめ言葉というものは、使い方ひとつで人間関係を大きく変える道具になります。道具ですから、下手に使い方を間違えると、思わぬ失態を演じかねません。私がここで言う使い方とは、タイミング、相手の立場、相手への配慮、ほめ具合の加減などです。見えすいたお世辞と言われられないためには、こうした言う側の心配りは必要だということです。やはり、それ相応の人間観察が必要だということではないでしょうか。』~と書かれております。

子供も、大人も皆一人ひとり異なります。それぞれの言動を良く見極め、良いタイミングで、本人が納得するほめ言葉を投げかけられたら素晴らしい効果が現れると思います。



## 【**一日一生**】

(いちにち いっしょう)

人は、朝起床して、夜就寝で一日という一生を終えます。これを寿命の数だけ(今や平均寿命は80才を越えています)繰り返しますが、人の寿命は、いつ、どのように終わるか誰も予測できないのも現実です。急な病で亡くなられたり、思わぬ事故に遭遇したり等あることもニュースでご存じのとおりです。

だから、命ある毎日とその一生の最後の日と思って一時一時を大切に、常に一生懸命に事を為し、悔いなく生きる気持ちが大事だということです。「いまこの一瞬を大事に過ごす」ということです。

人生は、一度きりで、やり直しが出来ませんが、「一日一生」の気持ちを持って事を行なえば、昨日の自分と今日の自分を繰り返すのは、時間的にもつたいないと思うようになり、寿命のある日数の期間、毎日の一生を悔いのないように生きて、頑張ろうという気持ちになれます。

「過去も未来も存在せず、あるのは**現在と言う瞬間だけ**」という言葉もあるように、私たちが、いろいろなことをできるのは、常に現在という瞬間だけなので、**今”を真剣に、本気で生きる今**を、真摯に生きるためには、「一日一生」の気持ちが大切と言えると思います。



江戸幕末期の思想家であり、教育者、そして兵学者(1830~1899)三十年の人生

満開となれば、  
やがて花は落ちる。  
太陽は南中すれば、  
やがて陰りはじめる。  
人は壮年を迎えれば、  
やがて老いていく。  
百年の間、  
必死で勉強すべ  
きであり、ゆっ  
たりとくつろぐ  
暇などない。

吉田松陰



【ふれあい学校賞 受賞】  
昨年引き続き、「ふれあいませり」で、表彰状を受賞した。親御礼申し上げます。

## ● 今月のポイント

なりたかった自分になるのに、遅すぎるということはない

(ジョージ・エリオット 英国の女流小説家)

